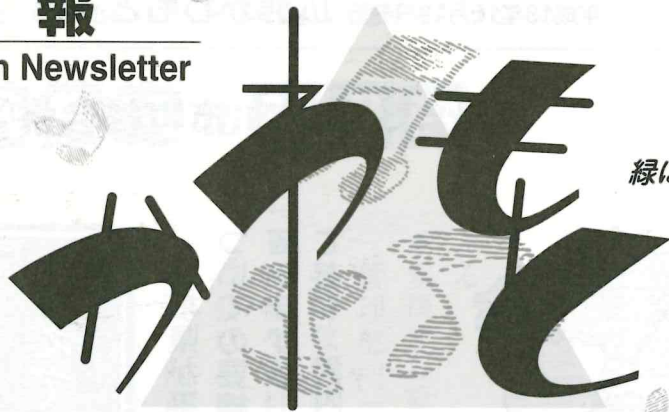




緑にこだます音楽の里

2001 10
平成13年

October No.366

<http://www.web-sanin.co.jp/local/kawamoto>

特集 18

市町村合併

③

自治会と意見交換

論議深める



合併問題について、研究会のメンバーと
意見を交わす因原自治会

川本町役場の若手職員を中心にした市町村合併研究会は9月28日、勤労者福祉センターで因原自治会との意見交換会を開きました。住民主体の合併論議が求められる中、どのような論議を展開し、まちづくりの追い風にしていけるのか。21世紀の行政課題『市町村合併』を特集します。

意見交換会には、因原自治会の住民二十三人が参加。合併に向けて加速する国や県の現状や町財政について、メンバーの説明に耳を傾けました。

この中で研究会は「合併の判断には、将来を見据えた極めて高度な決断が必要」とした上で「その是非は住民の自主的な選択」とする「平成の大合併」の理念を強調しました。

また、厳しい財政事情の中、多様化する住民ニーズに対応できるまちづくりを築いていくためにも「各自治体は、合併による効果や懸念といった情報提供を積極的に行う必要がある」としました。

引き続き意見交換に移り、参加者からは合併が住民生活に何をもたらすのか、などの意見や質問が出ました。

主な声は次のとおりです。

過去の合併を振り返ると中心部と周辺部の行政サービスの格差が明らか▽合併は時代の

の流れだろうが、住民の負担が増すようだと困る▽合併を機に道路など生活基盤の整備を望む▽合併すれば多くの人の考えや知恵が望める▽本町だけで論議をするのではなく、早く他町村と意見交換をすべき▽合併特例法の期限（平成十七年三月三十一日）まで時間はわずか。住民に積極的な情報提供をしてほしい▽本町の所在地が住民の利益、不利益を左右するのでは▽郡都府ある本町が率先して合併問題に取り組むことが必要――など。

これらの声に対して研究会は「これから一層、他町村の動きも活発になるだろう。合併論議はまさに、まちづくり論議。皆さんの積極的な参加をいただき論議を深めていきたい」と答えました。

研究会は、今後も自治会などとの意見交換を積極的に行い、幅広い層の声を年内までに集約。今後のまちづくりに生かすことにしています。

特集18 市町村合併③

考えてみよう、邑智郡七町村の合併

島根県が平成十三年三月に作成した「市町村合併の推進についての要綱」には、邑智郡七町村の合併パターンが示されていますが、この提示をたたき台とした議論や研究が急がれており、郡内町村ではこれに向けた検討がはじまっています。



市町村名	人口(人)	総面積(km ²)
川本町	4,781	106.4
邑智町	4,606	185.9
大和村	2,018	97.0
羽須美村	2,080	74.0
瑞穂町	5,305	207.8
石見町	6,484	137.4
桜江町	3,604	110.1
計	28,878	918.6

人口：H12年国勢調査結果速報

面積：「国土地理院調」平成10年10月現在

県の要綱によれば、邑智郡七町村の結びつきの強さ、合併の効果や課題について次のように述べています。

結びつきの強さ

- ① 明治十二年に郡役所が川本町（当時・川本村）に設置されて以来、郡としての一体性を共有しているなど、歴史・文化等の結びつきが強い。
- ② 各町村間で通学、通勤、病院等、日常生活上の結びつきが強い。
- ③ 邑智郡は県下でも、邑智郡町村総合事務組合や邑智郡広域振興財団の設立など広

域行政（アンテナショップ開設、介護保険、税・戸籍介護保険等の情報処理、一般廃棄物処理など）を積極的に推進している地域としての行政上の結びつきが強い。

期待されている効果

- ① 邑智郡振興計画「悠邑ふるさと構想」に基づく広域振興施策を一元的に推進することができると期待される。
- ② 郡内の道路整備をはじめとする事業の効率的重点的な実施が可能となる。
- ③ 邑智病院を中核として現在の町村立診療所の医療機能を有機的に整備充実することが期待される。
- ④ 江の川を中心に川の資源を有効に活用した広域的な交流事業が期待できる。
- ⑤ 広島市に向けた産業振興を一体的に取り組むとともに、交流人口の拡大を期待することができる。

合併に際しての課題

- ① 面積が大きく山間地がほとんどで、人口の減少が著しく高齢化率が高いことなどから、合併に伴う地域活力の低下など住民の合併についての不安に対する施策が必要である。

- ② 各町村とも道路改良や下水道の整備、小中学校の整備等が課題となっている。



市町村合併の効果や懸念について一般的には次のようなことが言われています。

効果

- ① 公共施設の利用など便利になる。

- 旧市町村に支所や出張所を設置することにより、住民票の発行などを行う窓口が増え便利になる。

- 公共施設等の利用にあたっての選択肢が増え便利になる。

特集18 市町村合併③

- ②行政サービスがより充実する。
- 行政基盤の強化で、より多くの専門職(社会福祉士、理学療法士等)の確保が可能となり、専門的で、高度な行政サービスが提供できる。
- ③広域的で効果的な施策の展開による地域づくりが可能となる。
- 広域視点に立って、土地利用計画の策定、道路や公共施設の整備、観光の振興、環境の改善などの施策を実施することができ。
- ④行政の効率的な運営ができる。
- 重複する総務・企画部門など管理部門の統合等により、職員数の削減が図られる。
- 三役や議員、各種審議会の委員などの総数が減少し、経費が削減できる。
- ⑤合併前では実施できなかったような大規模事業ができるようになる。
- ⑥大規模のイベント誘致や企

- 業の進出などが期待でき地域イメージが向上する。
- ⑦人口規模が増大すれば、人口一人当たり歳出総額が減少し、より効率的な行財政運営が可能となると考えられる。
- 懸念
- ①合併後の中心部・周辺部の格差が生じる懸念がある。
 - ②きめ細かなサービスが受けられなくなる。
 - ③今までより役場が遠くなる。
 - ④行政サービスの低下や使用料等住民負担の増加となる。
 - ⑤地域の個性が薄れ、地域社会への帰属意識も低下する。
 - ⑥議員数が減少すると、住民の意見が反映されにくくなる。
- こうした懸念に対しては、合併協議会で検討され様々な対応策が講じられることとなります。

議員の定数

単位：人

町村名	国勢調査人口 (H12.10.1)	現行定数	合併した場合 の法定定数
川 本 町	4,781	14	26
邑 智 町	4,606	14	
大 和 村	2,018	10	
羽須美村	2,080	12	
瑞穂町	5,305	14	
石見町	6,484	14	
桜江町	3,604	12	
計	28,878	90	26

職員1人当たりの住民数

単位：人

町村名	住民基本台帳人口 (H12.3.31)	職 員 数 (H12.4.1)	職員1人当たり 住 民 数
川 本 町	4,756	86	55
邑 智 町	4,756	94	51
大 和 村	2,148	72	30
羽須美村	2,254	61	37
瑞穂町	5,240	86	61
石見町	6,604	194	34
桜江町	3,762	73	52
計	29,520	666	44

部門別職員数の状況(平成12年4月)

単位：人

区 分	一 般 行 政									特別行政	公 営 企 業 等					総合計
	議会	総務企画	税務	農林	商工	土木	民生	衛生	計	教育	病院	水道	下水	その他	計	
川 本 町	1	20	3	12	1	9	8	5	59	16		6	3	2	11	86
邑 智 町	1	21	4	14		8	25	2	75	11		2	4	2	8	94
大 和 村	1	14	2	8		3	23	4	55	8	6	1	1	1	9	72
羽 須 美 村	1	14	2	8	1	4	17	1	48	6	3	1	1	2	7	61
瑞 穂 町	1	19	3	11	3	5	7	8	57	17		4	5	3	12	86
石 見 町	2	23	5	15	1	6	110	5	167	15		4	6	2	12	194
桜 江 町	1	15	3	8	1	8	20	3	59	5		3	4	2	9	73
計	8	126	22	76	7	43	210	28	520	78	9	21	24	14	68	666

資料：平成12年定員管理調査

※邑智郡町村総合事務組合、邑智病院の職員数は含まれていません。

※民生欄の各町村間の職員数の差は、福祉施設等が公立かそうでないかによります。

地球の環境願い熱演

総勢200人の住民参加ミュージカル



つめかけた観客の感動を呼んだフィナーレの場面

地球の環境保護を訴えるミュージカル「あいと地球と競売人」川本公演が九月二十三、二十四日、悠邑ふるさと会館でありました。

五月のオーディションを経て練習を重ねてきた百二十人の出演者は、ミュージカルを機に結成された悠邑ふるさと吹奏楽団の演奏にあわせて、歌や踊りを熱演。両日ともに満席の観客に、地球環境の尊さを訴えました。

舞台を支えてきた悠邑ふるさと会館の職員は「出演者、吹奏楽団、裏方スタッフが一体となって公演したミュージカル。地域の多くの方たちに感動を共有してもらい嬉しい」と、総勢二百人がかわった手作りミュージカルの成功に、声を弾ませていました。

安全運転 呼びかけ

9/26



川本町交通安全母の会は、秋の交通安全運動の一環として、交通安全対策協議会とともにインフォメーションセンター前に交通安全 TENT 村を開設。「安全運転に心掛けて」とチラシなどをドライバーに手渡し、交通マナーを呼びかけました。

趣味生かした 文化展

9/29~30



川本町老人クラブ連合会の文化展が、すこやかセンターで開かれました。会場には、手芸品やちぎり絵など会員が趣味を生かした力作、約400点が展示。大正琴などサークル活動の成果も披露され、来場者を楽しませました。

JA島根おちから カーブミラー寄贈

9/25



川本町をはじめ郡内の町村は、JA島根おちから、それぞれカーブミラー2基を寄贈していただきました。本町では、これらを町道の危険個所に設置して、交通事故の防止に努めていきます。

陶芸作品 互いに鑑賞

8/25



川本高校を地域に開放する連続講座「やさしい陶芸教室」の閉講式がありました。郡内から参加した受講生16人は、8回の講座を終了。出来上がった皿や鉢などの作品をテーブルに並べて互いに鑑賞し、交流を深めました。

町づくりの議論深めて

9/29

しまね県民大学公開講座「そこが知りたい市町村合併」が悠邑ふるさと会館であり、受講生を中心に七十人が参加。平成十一年四月に合併した兵庫県篠山市・政策部次長の対信文さんが合併の経緯などを話し、「合併問題をまちづくり議論のきっかけにしてほしい」と強調しました。



合併をテーマにした公開講座で事例を聞く参加者

※関連記事は八頁「合併考」に掲載しています。

国際交流コーナー

はしを渡った
外国人

こんにちは！国際交流員のアレックスです。

やっと涼しい季節に入って、自分にとって3回目の日本の夏が終わりました。僕は3回、日本の夏を体験したので、日本の四季の著しい変化や春夏秋冬の旬の食べもの、祭りなども体験したことがあります。なのに、たまに僕は日本について何も知らないはずだという風に思われているようです。相手は、僕の日本滞在期間は比較的長いということが分からないのでしょうか。だけど、僕は観光者ではなく、実際に日本に住んでいるという事は分かっていると思います。日本に来たばかりの外国人と、長期間にわたって日本にいる外国人の日本についての知識は、随分違うと思います。これは、歴史やほかの教科書で学べることでなくて、生活や習慣に関することです。



例えば、単純な例を使うと、お箸の持ち方について、ほとんど毎日何かを言われます。「お箸の持ち方が上手ですね。どこで習ったんですか？」と言うような質問をよくされます。これは確かに褒めの言葉で、相手が優しくて親切な人だからそういうことを言うと思うのですが、1年以上住んでいてお箸が使えない外国人はいないと思います。「お箸が使える外国人って珍しい」との考え方は、日本では骨の髄まで染みこんでいるようです。実は自分が初めてお箸を使ったのはイギリスで、中華料理を食べるために10代前半の時でした。それでも珍しさと僕は思わないのです。

皆さんは、ナイフとフォークが使えるでしょう!?

子育て情報いっぱい！

育児サークルがホームページ開設



意見を出し合いながら充実したHPを目指すメンバーたち

育児奮闘中の母親たちが集まる子育てサークル「おじやママキッズ」は、ホームページ（HP）を開設しました。HPのコンテンツ作りは、メンバーの松浦みゆきさんと堀江道江さんが担当。HPにはオリジナルソングを流したり、趣味を生かした手工芸、おやつを紹介した『おじやママ工房』、活動日記などを載せています。町の紹介コーナーでは、行身体験レポートや保育所・幼稚園情報、子育てインタビューも掲載。メンバーは「きめ細かい情報を提供し、生活に役立つHPを目指したい。ぜひアクセスして意見を寄せて」と、新たな仲間づくりに期待を寄せています。

アドレス <http://fish.miracle.ne.jp/oja>

中山間地域集落維持・活性化緊急対策事業

集落の活性化を目指して

この事業は、高齢化率の高い集落が地域活性化に向けた活動に取り組み際、県が最高百万円を交付するものです。これまでに承認を受けた集落を紹介します。

木谷 ふるさと祭りの開催、なつかしのアルバム作成、カラオケ教室の開催

上川内 農産物の加工実習、集会所の台所増設、座机・調理器具等の購入

中石 ふれあい広場の照明・フェンスの設置、ゲートボール・ペタンク教室の開催

担当・役場企画財政課

生態系の保全や森林空間利用を重視した森林整備

3. 資源の循環利用林 効率的・持続的な木材生産に資する森林整備

◆施業中の町行分収造林・公社造林の長伐期施業等への変更に伴い、現在契約している団地の契約期間を延長することになります。計画策定後、変更契約を締結することになりますので、関係所有者の方はご協力をお願いします。

問合せ 役場農林振興課
☎0855-72-0636

主要地方道温泉津川本線 開通記念式典

日時 11月23日(金) 10:30～
場所 三原トンネル入口付近
問合せ 役場建設課
☎0855-72-0637

秋季全国火災予防運動 11月9日～15日

『たしかめて。火を消してから次のこと』

火災が発生しやすい季節を迎えます。一人ひとりの心がけで火災防止に努めましょう。

川本消防署・川本町消防団

介護保険料

口座振替ができる金融機関は、山陰合同銀行、島根中央信用金庫、島根おおち農業協同組合でしたが、10月から新たに、郵便局の口座振替も利用できるようになりました。希望される方は、最寄りの郵便局へ申し出てください。

問合せ 邑智郡町村総合事務組合
☎0855-72-3535

島根県最低賃金改正

日額 4,851円
時間額 608円
(時間額は時間労働者に適用)
適用 平成13年10月1日から
問合せ 島根労働局労働基準部
☎0852-31-1158



自衛隊生徒募集

受付期間 平成13年11月5日～平成14年1月4日
応募資格 中学校卒(見込み含む)17歳未満の男子
試験期日 平成14年1月6日(一次試験)
問合せ 自衛隊大田募集事務所
☎0854-82-1437

メールアドレス開設

皆様のご意見を直接、町長・議長へお送りください。
町長へのメール
y-oda@mx.miracle.ne.jp
議長へのメール
gicho441@mx.miracle.ne.jp



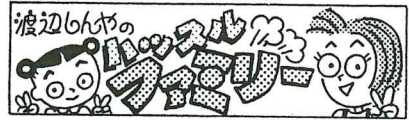
相談

人権相談 (人権擁護委員協議会)

日時 11月22日(木)
10:00～15:00
場所 すこやかセンター
問合せ 役場住民課
☎0855-72-0632

調停相談(日本調停協会)

日時 11月16日(金)
10:00～15:00
場所 悠邑ふるさと会館
問合せ 島根県調停協会川本支部
(川本裁判所内)
☎0855-72-0045



11月の保健行事

川本町役場健康福祉課
☎0855-72-0633

1日(木)●断酒会
19:00～21:00
すこやかセンター
7日(木)●リハビリ教室
10:00～15:00
すこやかセンター
13日(火)●乳児相談
13:00～14:00
すこやかセンター
●成人健康相談
14:00～15:00
すこやかセンター
15日(木)●三原地区健康相談

9:30～10:30 朝日ヶ丘会館
10:45～11:30 親和集会所
16日(金)●心の健康相談
13:30～15:30
川本健康福祉センター
20日(火)●因原地区健康相談(健診報告会)
9:30～10:30
因原勤労者福祉センター
21日(水)●リハビリ教室
10:00～15:00
すこやかセンター
22日(木)●乳幼児相談 すこやかセンター
13:00～ 4・5ヵ月児
13:15～ 1歳6ヵ月児
13:30～ 3歳児
13:45～ 1歳3ヵ月児
27日(火)●痴呆性老人をかかえる家族のつらい
13:30～ すこやかセンター



交差点 情報

身近な話題をお寄せください!

川本町役場総務課

〒696-8501

島根県邑智郡川本町大字川本545-1

☎ 0855-72-0631

Fax 0855-72-0635

Hp <http://www.web-sanin.co.jp/local/kawamoto>

E-mail kawamoto@web-sanin.co.jp

町の人口

♂ 男 2,291人 (2,329)

♀ 女 2,438人 (2,473)

計 4,729人 (4,802)

うち65歳以上 1,647人 (1,656)

うち15歳未満 525人 (549)

🏠 世帯数 2,019戸 (2,044)

平成13年10月1日現在の住民登録による
()は前年同月



子育て

保育所へ遊びにきてね

手作りおもちゃ、小麦粉ねんどなどで遊ぼう!

因原保育所 11月13日(火)

川本北保育所 11月20日(火)

時間はいずれも9:30~11:30

問合せ 子育て支援センター

(川本保育所内)

☎0855-72-0170



産業祭

第25回川本町産業祭

11月3日(土)

10:00~ テープカット

川本小学校バトン鼓
笛隊

13:30~ 特産品コンテスト

14:45~ 婦人会踊り

15:30~ 間伐ターゲット大会

11月4日(日)

10:00~ 川本町綱引き大会予
選

12:30~ JAジャンプ大会

13:40~ 川本町綱引き大会決
勝トーナメント・3
位決定戦

14:20~ 川本中学校・川本高
校吹奏楽部合同演奏
会

会 場 中央大通り

問合せ 川本町産業祭実行委員会
(役場企画財政課内)

☎0855-72-0634



暮らし

ごみ持ち込みの受け入れ

日 時 11月25日(日)

9:00~15:00

場 所 笹畑クリーンセンター

受け入れるごみ

一般家庭から排出される燃える
ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、プ
ラスチック系ごみ、資源ごみ(瓶、
缶、紙類)

※燃えるごみは80センチ四方以下
に解体してください。

受け入れないごみ

農機具、家電四品目(エアコン、
テレビ、冷蔵庫、洗濯機)、事業
系ごみ、産業廃棄物

問合せ 役場住民課

☎0855-72-0632

ダイオキシン類調査結果

検査施設 笹畑クリーンセンター

検査実施日 平成13年7月5日

検査結果 0.5ナノグラム

厚生労働省規制値

現 在 80ナノグラム

平成14年12月1日以降 10ナノグラム

(1ナノグラムは10億分の1グラム)

※ダイオキシン類は、ものを燃焼
する過程などで発生します。一
人ひとりが環境問題に関心を持
ち、ごみの減量や再利用にご協
力をお願いします。

川本町・邑智郡町村総合事務組合

年金週間 11月6日~12日

加入の届けは忘れずに

国民年金は、国内に住んでいる
20歳以上60歳未満の全ての方に加
入が義務づけられています。

保険料の納め忘れに気をつけて

保険料を納めていないと将来、
年金が受け取れない場合があります。

年金の請求は忘れずに

年金は自分で請求しなければ受
け取ることができません。どんな
ときに、どんな年金がもらえるか
知っておくことが大切です。

問合せ 役場住民課

☎0855-72-0632

確定申告書が変わります

納税者の方々の要望にお応えし
て、平成14年1月から使用する所
得税の確定申告書が見やすい様式
に変わります。新様式は国税庁のホ
ームページでも見ることができま
す。

<http://www.nta.go.jp>

問合せ 役場住民課

☎0855-72-0632

「川本町森林整備計画」 ご意見募集

森林法の改正に伴い、森林・林
業整備の指針「川本町森林整備計
画」を見直すことになりました。
計画には皆さんのご意見を反映さ
せていきます。次の3つの区分に
ついて、ご意見、ご要望をお寄せ
ください。

1. 水土保持林 国土の保全、
水資源かん養機能の高度発揮
に資する森林整備
2. 森林と人との共生林 森林

インタビュー

合併考

がっぺい
こう

〈4〉

兵庫県篠山市。平成十一年四月、四町が合併して生まれた同市は、理想的な合併を遂げたモデル都市という高い評価を得て連日、全国の自治体が視察に訪れています。合併問題をテーマにした公開講座で講師として来町した同市政策部次長・大対信文さんに、新市誕生の背景などについて聞きました。

合併論議が浮上した背景は何でしょうか。

「昭和六十三年頃から鉄道や高速道路などの交通網の整備が進み、関西の中心圏との距離が縮んだことから人口が増加傾向になってきました。それまで過疎化に悩んでいた圏域が、新たな課題を抱えることになったわけです」

「その新たな課題とは。」

「人口増加に伴う水資源の開発、ごみ処理施設の整備充実、広域の斎場建設、国立病院の存廃問題などです」

「合併論議」浮上の背景 兵庫県篠山市①

どです」

「これら広域課題の解決には三百億円、四百億円の事業費を必要とし、旧多紀郡四町の財政を圧迫するのは明らかでした。そこで、平成四年に四町議会の議員が一堂に会し、研究会を立ち上げました。これは合併の是非を検討するのではなく、将来のまちづくりを模索する場でした。半年かけて議論を重ねた結果、合併が必要であるという選択肢が示されました」

「議会の呼びかけに対して、住民や行政の反応は。」

「実は旧多紀郡には『昭和の大合併』と言われた三十年から後も、五回にわたり合併論議が持ち上がりました。しかし、本庁の位置、町名、財産の扱いなどで同意できず、不調に終わるという苦い経験を持っています。当然今回も、住民や行政側には、失敗に終わったという懸念がありました」

「今回はなぜ、合併が実現したのですか。」

「この十数年間を振り返ると、合併論議の争点は将来を見据えたまちづくり論議そのものであり、どのような未来を描くのか、住民の関心が徐々に高まってきたものだと分析しています」

「モデル都市という高い評価を得ていますが、その経緯は決して平坦ではありませんでした。しかし四十数年間、常にまちの活性化や暮らしの豊かさを求めて、『我がまちのアイデンティティー(個性)』を住民に示してきたことが、今回の合併を実現させた大きなカギではなかったかと考えています」

※今回は「合併に至るまでの経緯」をお伝えします。

兵庫県篠山市…メモ

平成十一年四月に旧多紀郡四町が合併。人口約四万七千八百人。総面積約三十七平方キロ。古くは「丹波篠山」の城下として栄える。現在は神戸、大阪、京都など関西の中心都市から五〇キロという近さにより大都市周辺の自然豊かな生活・文化圏として発展。
ホームページアドレス
<http://www.city.sasayama.hyogo.jp/>



兵庫県篠山市政策部次長 大対信文さん

私の趣味

18

驚見 通
(川本町下新町)

「趣味らしくない趣味」

職を退いてから随分いろんなことに手を出したが、どれもこれも長続きしないでものにならず忘れてしまった。ひどいものになるとテレビに魅了されて、意気込んで注文はしたものの、その教材が届くまでの間に興味が薄れてしま



平成7年・川本町音楽会祭にて(著者・前から2列目左)

大正琴を練習する、その仲間との交流の場の支えあう雰囲気がとても楽しいから、少々頭が痛くても、体がだるくても(仲間が待っている。)と思えば、琴を抱えていそいそと出かけていく。私の趣味、それは大正琴を通しての「仲間づくり」かもしれない。

編集後記

▼今月から本誌『合併考』の「ご意見番」が交代。登場を依頼した大対信文さんは九月、合併先進地・兵庫県篠山市から合併講演会の講

師として来町。講演前の慌ただしい時間の中、つたない取材に快く応じてくださいました。▼「まちのアイデンティティーを示したことが合併成功の力ギ」と語る大対さんのインタビューは、次号も続きます。(K)